

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072500475
法人名	医療法人 福田病院
事業所名	グループホーム スマイルライフ
所在地	福岡県大川市大字向島1051-2 (電話) 0944-88-2828

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 11月 20日
評価確定日	H22年 1月 15日

【情報提供票より】 (平成21年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	17 人
常勤	16人
非常勤	1人
常勤換算	15.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年10月31日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.04歳	最低	71歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 福田病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地に位置し、通りに面した広い敷地の一番奥に柔らかい曲線を描いた緑色の屋根の平屋建て事業所である。管理者及び職員は、利用者主体のサービス提供や地域交流を一体となって実践している。運営母体である病院が近隣にあり、重度化が進む中でも安心して過ごせるような体制となっている。職員は、緊急時の対応について繰り返し研修を行い、いつでも対応できるよう努めている。質の高いケアを実施するため資格取得への助成制度をはじめ、段階に応じてスキルアップができるような研修を実施している。2ユニット合同の祭りを開催し、地域の文化祭へ参加する等、利用者と職員は、地域住民と顔なじみで親密な関係が築けるよう積極的に地域と交流を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はないが、よりよいサービスの向上のため日頃から話し合いを持ち、日々改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で意見交換を行い、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。委員の意見や要望について話し合い、習字や脳トレーニングを始める等、日頃のケアに結び付けている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	各ユニットに色違いの意見箱を設置している。年2回の家族会及び家族来訪時は、意見や要望を気軽に表出できるよう声かけや雰囲気作りに配慮し、運営に反映させるよう努めている。また、事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りへの参加や近隣の小・中学校との交流、事業所主催の催しを開催する等している。母体である病院の機関誌に事業所の活動を掲載し、一部利用者の老人会への加入を通じて、積極的に地域と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で作り上げた理念の中に「家庭的な環境の中で住み慣れた地域との交流を持ち…」と、地域密着型サービスの視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼やミーティング時に理念の確認を行いながら、日々の実践に努めている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りへの参加や近隣の小・中学校との交流、事業所主催の催しを開催する等している。母体である病院の機関誌に事業所の活動を掲載し、一部利用者の老人会への加入を通じて、積極的に地域と交流することに努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で意見交換を行い、取り組んでいる。前回評価での改善課題はないが、よりよいサービスの向上のため日頃から話し合いを持ち、日々改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。委員の意見や要望について話し合い、習字や脳トレーニングを始める等、日頃のケアに結び付けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政担当者と日常的に運営に対する報告、連絡、相談を行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、制度について内部・外部研修で学ぶ機会があり、伝達研修で全職員の共有化を図っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。また家族等へは、入居時及び家族会で説明している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行し、担当職員が個別に利用者の暮らしぶりや行事の様子等を記載して報告している。家族来訪時には日誌を開示しながら状況報告し、緊急時等は電話で報告している。金銭管理については、家族来訪時に金銭出納帳を明示し、領収書の原本を手渡しし、確認の署名・押印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに色違いの意見箱を設置している。年2回の家族会及び家族来訪時は、意見や要望を気軽に表出できるよう声かけや雰囲気作りに配慮し、運営に反映させるよう努めている。また、事業所以外の第三者相談窓口については、利用開始時に説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努めている。行事は2ユニット同日に行い、利用者と職員は馴染みの関係を築いている。職員が代わる際は引き継ぎの期間を十分に取る等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等に関係なく、適正を重視している。ユニット間で能力や経験年数のバランスを取るよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>利用者の人権を尊重するための人権教育・啓発活動に取り組む、全職員で内部研修をしている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は、職員が日常的に学ぶことを推進している。研修情報を開示し、計画的な研修や資格取得が出来るよう機会が与えられている。研修内容については、全職員が内部研修で共有している。テキスト・研修記録がある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者ネットワークに複数加入し、管理者や職員は交流会や相互訪問、研修会を通じて情報交換し、知識と技術向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>母体の病院利用者の状態及び家族等の状況から、利用者を継続して受け入れている。利用開始前に病院訪問を行い、馴染みの関係を作り不安解消に努めている。利用開始時は家族の意見をもとに集中的に観察、徐々に事業所に馴染めるような工夫をしている。本人家族の希望により、一緒に泊まることも出来る。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や菜園作りを共に行い、職員が知らない知識や技を利用者から教えてもらう場面がある。また、職員は利用者から労いの声をかけてもらうことがある等、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや希望を聴取しながら、一人ひとりに合わせたペースでケアに努めている。意思疎通が困難な場合は、表情や生活歴、家族から情報を得て、利用者本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の希望や意向を基にアセスメントを行い、担当職員が話し合い、毎月行うモニタリングで個別具体的な介護計画を作成している。家族が了承した署名・捺印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、また状態が変化した場合には介護計画を見直し、現状に即した新たな計画を作成している。家族にも電話で連絡している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、見舞いながら医療機関や家族と密に連絡を取り、早期退院に向けて支援している。また、必要に応じて訪問介護を利用する等、多機能を活かした支援をしている。</p>		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望する医療機関での受診を支援している。入居時に家族と通院介助の方法や情報伝達について話し合い、本人や家族等の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援は、柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の対応方針があり、入居時や折に触れて、対応しうる最大の支援方法を説明している。段階に応じて話し合いをする等、本人、家族、医師、全職員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や守秘義務について内部研修を行い、職員は諸場面で利用者の尊厳を損なわないよう対応に配慮し、注意しあっている。また、ミーティングにおいても意識化を図り、プライバシー確保の徹底を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、朝寝が好きな人の遅い食事や、ゆっくり会話を楽しむ人との会話等、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重し、利用者の希望にそって支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行い、同じ食事を同じテーブルで食べている。献立は利用者の状態や嗜好に配慮し、食事を楽しみながら見守っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせ、入浴が楽しいものになるように声かけし、支援している。入浴拒否の場合は、その原因を探り職員を替える等工夫をして、気持ちよく入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ることや得意なことを把握し、畑仕事、家事、洗濯たたみ、ケーキ作りの手伝い等の場面を作り、感謝の気持ちを伝えている。また、ハンドベル、ゲーム等のレクリエーション活動を含めて、一人ひとりに楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望を大切に、天候や体調に配慮しながら、事業所内の庭の散歩、神社へ参拝、買い物、ドライブ、外食等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠していない。全職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、利用者の外出傾向を把握し、利用者の外出時には見守りや付き添いを行っている。また、近隣へは散歩時に協力依頼をしている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得て、昼夜設定の避難訓練を実施している。全職員は、消火器、避難場所、誘導法、救急手当てを熟知している。非常用の飲料水・備品を準備している。	○	運営推進会議等で、民生委員児童委員や地域住民へ災害訓練への参加を働きかけてほしい。また、非常用食料を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全利用者の食事摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立は職員が交代で利用者の嗜好を考慮して作成し、年2回、母体病院の栄養士に専門的チェックとアドバイスを受けている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、利用者の行事写真や利用者作製の貼り絵・書道を飾っている。利用者が不快と感じる音や光はない。ソファや畳の間を設置して語らいや昼寝をする等、生活感を採り入れ、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、利用者馴染みの整理筆筒、時計、テレビ、椅子、手鏡、カレンダー等が持ち込まれ、壁には家族写真が飾られている。また、花を生ける等し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※  は、重点項目。